

《担当者名》 丸川活司

## 【概要】

臨床細胞病理学Ⅰ、Ⅱおよび臨床組織・細胞病理学実習で学習した知識と技術をもとに、様々な検体の正常、異常標本を観察することで、臨床現場に出た際の即戦力を養う。本講義では1)細胞検査士について、2)女性生殖器の細胞診、3)呼吸器の細胞診、4)表在臓器(乳腺・甲状腺・唾液腺)の細胞診、5)泌尿器の細胞診、6)消化器の細胞診、7)リンパ節の細胞診、8)体腔液・脳脊髄液の細胞診、9)骨・軟部組織の細胞診について、実際の臨床検査で判定が難しい標本についての観察をおこなう。

## 【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP2) 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

(DP6) 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。